

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
<b>理念に基づく運営</b>						
<b>1. 理念の共有</b>						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者様の生活歴をもとに、自由だからこそ自立した生活ができるような理念をつくっています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の勤務中や毎月のカンファレンス、全体会議や運営推進会議の場で理念について確認しています。		これからも常日頃から全職員が理念に即して行動できているか、確認しあいながら取り組んでいきたい。
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時や運営推進会議等で、ご家族には理念についてお話し、理解を求めています。		これからは地域などに向けてホームの理念を発信していくよう取り組んでいきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の住人などには散歩時に挨拶をし、また買い物に行くスーパーの店員にも顔を覚えてもらい、ホームの住人を認識してもらえるよう声をかけています。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のお祭りに参加したり、福祉センターの毎月の催し物に定期的に参加をし、子供たちとも触れ合っている。ホームの夏祭りにも地域の方達に参加していただいています。		もっと多くの行事等に積極的に参加していき、地域と交流していきたい。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在はまだ、具体的に取り組んでいる内容がありません。		今後は地域・町内会と協議して、地域とともに取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議等で話し、意義については理解をしています。		今回が初回なので、改善等については今後取り組んでいきたい。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、そこでのご家族等の意見を反映し、日々のサービスに活かしています。また、改善状況や会議の内容を全家族に送付しています。		まだ運営推進会議を1回しか開催できていないので、今後は定期的開催していけるよう取り組んでいきたい。
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員と、地域のニーズや状況等について話をしています。		今後は更に情報交換等を含め、サービスの向上に努めていけるよう取り組んでいきたい。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方もおり、入居前後に必要に思われる方に関しては、その都度利用について紹介をしています。		今後は職員内にも権利擁護等についての理解を深めていけるよう、取り組んでいきたい。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村主体の虐待防止の研修に参加し、全職員で研修の資料等を回覧しています。		今後は更に研修等に随時全職員が参加できるように取り組んでいきたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に細かく説明し、疑問点については契約後も随時説明しています。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員やご家族を通じてご本人の心情を伺ったり、ご意見箱を設置してその意見も反映しています。運営推進会議でも意見を伺って		介護相談員等の受け入れも検討し、市には受け入れる旨を伝えている。
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時やケアプラン等を通じてご本人の状態を随時ご家族に報告しております。また、金銭管理についても個別に対応し報告しております。		今後はホームの便りを作成し、毎月配送する予定。
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、運営推進会議の時に伺い、運営に反映させています。契約時に外部にも苦情等の受付機関がある旨の説明もしています。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や、日々の勤務時等にも意見を聞いて、可能な限り運営に反映しています。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の生活に合わせて、職員間で話し合い勤務体制を調整しています。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にユニット間の異動はありませんが、急な場合などに対応できるように各ユニットともに常日頃からユニット間わけ隔てなく入居者様と顔を合わせています。なるべく離職者が出ないように、働きやすい職場作りを目指しています。		新しい職員が入る場合は必ず全員に紹介している。
<b>5. 人材の育成と支援</b>						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、それ以外にも外部の研修の参加を促しています。		さらに内部の研修を充実させ、外部の研修にも積極的に参加できるように取り組んでいく。
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はまだ、具体的に取り組んでいる内容がありません。		今後取り組んでいけるよう、他事業者とも協議をし取り組んでいけるよう努める。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の意見を重視し、なるべく働きやすい現場を作れるように努めています。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員とできるだけ話をし、改善すべき点などについては改善できるよう努めています。		更に働きやすい環境を目指していきたいと思う。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の身体・精神状況などを踏まえた上で、対処できるよう努力しています。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時のみならず、入居までに不安なことに関してもよくお話を伺い、対処できるように努力しています。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際に、ご本人にとってどのようなサービスが適しているかを見極め、それに即してご家族の相談に対処しています。		主治医の意見も伺って参考にしています。
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をしていただいて、ご本人に現在入居している方や職員と話をいただき、安心できるように努めています。		今後もご本人・ご家族と相談し、なるべく双方納得の上、入居できるよう取り組んでいく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護をする人という立場ではなく、ともに生活をし支援する・支えるという気持ちで接するよう心がけています。		さらに入居者様から学ぶことの大切さを職員間で深めたい。
28		本人を共に支えあう関係	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居後も行事の参加はもちろん、何かあるごとにご本人の支援について相談し、一緒に考えていくように取り組んでいます。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係と、これからの関係を考慮した上での関係作りを心がけています。		実際に関係がよくなった旨の報告をご家族より受けている。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や友達など、連絡や面会もしていただき、必要に応じて居室に個人の電話ももてるようにしています。		今後は個人の馴染みの場所とのつながりを大切にしていきたい。
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士の関係を考慮した声掛けをし、トラブル等も事前に回避できるよう努めています。共同生活を楽しく過ごせるよう職員が間に入り、配慮しています。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院後や在宅復帰した後もご本人の顔を見に伺ったり、ご家族に具合を伺ったり相談事があれば、それに対応しています。		
<b>3. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
<b>1. 一人ひとりの把握</b>						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人から希望を伺い、困難な場合はご家族等と話をしなるべくご本人のいに添えるよう努めています。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴・生活環境の把握を行い、現在のご本人の状況を捉えられるよう努めています。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の状況、入居後の状況等を考慮し、一人ひとりにあった支援をするよう努めています。		無理に強制したりするようなことはせず、できることをできるようにさりげなく支援している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前から入居後もご本人・ご家族・職員より意見を聞いて、計画を作成しています。		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成してい	定期的なプランの見直しとともに、そのときの状況に合わせて随時プランの変更をしています。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミニカンファレンスを随時行い、ケアを実践・見直ししています。日々の気づきや変更への考慮点などは、随時申し送りノートに記入するようにしています。		記録物など、ツールをより活用できるように日々変更・修正していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設のカラオケルームや地域交流スペースなど、ご本人の状況や嗜好に合わせて対応しています。併設施設に兄弟が入居されている方もおります。		外食や買い物、畑仕事等も行っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会福祉協議会とボランティアについて協議はしたが、実際にはまだこれからの課題です。		押し花等のボランティアの方が来られたりはしている。
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現段階では、これからの課題です。		今後はご本人の意向などにより、検討していく。
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、支援センターの役割や意見については聞いています。		現在はまだ協働までには至っていない。
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のクリニックの医師と相談し、月に2回の往診と、希望時には医師より現在の状況の説明を行っています。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設のクリニックの医師と相談し、状況によって他の病院の専門の医師に紹介・助言をいただいています。		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師が毎日健康管理をし、必要に応じて相談、助言をいただいています。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携し	入院先の先生や看護師、相談員と相談しながら行っています。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りについてお話をしています。		今後は契約時に看取りの指針の公布と、その時点での同意を得るようにしたい。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状況に応じてご家族と主治医、看護師や職員とで今後についての相談を行っています。ご家族よりその段階でも同意書をいただいています。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに	事前にご本人やご家族、在宅の事業者と協議し、必要な物品や書類についても提供しています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>						
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室・トイレの扉や声掛けの方法、記録物についても他者の目に極力触れないように対処しています。		声掛けについては、更に向上していきけるよう努力していく。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力に応じ選択性や自己決定ができるよう支援をしています。何事に関しても入居者様の意見を聞くように努めています。		今後はより個人の希望をかなえられるように努めていきたい。
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった業務・日課はなく、常日頃から入居者様のペースを守るよう心がけています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	併設施設内にある理容室で、外部の理容師にご本人で行かれることもあれば、今までの行きつけにご家族と行かれるかたもおります。		今までの行きつけに行きたいという方については、今後もなるべく意に沿えるように努力していく。
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの決定から買い物、調理、片付けまで入居者様と共に行っています。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療上の制限がない限り、個々で楽しめるように支援しています。		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、状況に応じて排泄の支援ができるよう努めています。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂に入られる方や、毎日入浴される方もいます。そのときの気分や希望に応じ、一人ひとりが気持ちよく入浴できるよう支援しています。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝の時間もご本人の希望や生活スタイルに合わせ、特に設けることなく行っています。リビングにはソファや和室があり、そこで休息することもできます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人の力に応じて、掃除や炊事、洗濯など特に強制はせず、できることをしていただいています。得意分野が個々にあり、それらを発揮できるよう、さりげなく支援を行っています。家事全般に皆様関わっておられます。		
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、個人の買い物を支援しています。ご家族へのプレゼントや、ほしいものを自分で購入されています。基本的に個人で管理できる方に関しては、ご家族了承の下ご本人が管理されています。		ご本人・ご家族より希望があった場合のみ預かっています。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩は、天気や気分によって毎日メンバーが変わります。外食等も行い、なるべく外へ出かけられるようにしています。		今後は個別の対応をより強化していきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全体での外出などは行っているものの、個別での外出となると、ご本人の希望に答えられていないように思います。		今後は個別での外出、ご家族との外出などをより充実させていくよう努める。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親族や友達にホームの住所を教えたり、居室に個人の電話をもって連絡も取れるよう支援していきます。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の際は個室や和室など個別の対応から、リビングで他の入居者様やスタッフを交えての談笑など、その時々に応じ配慮しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については契約時にも特に話をせず、契約書にも身体拘束を受けない権利があることのみを明記しております。身体拘束となる行為は行っておらず、また今後もするつもりがありません。		今後は職員が、具体的な行為を正しく理解できるように取り組んでいく。
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを推進できるよう、夜間以外玄関には施錠しておらず、居室の窓もいつでも全開にできるようになっております。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常日頃から声をかけ、所在確認に努めると共に、時間におけるご本人の精神的な変化にも対応できるよう努めております。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の状態や、物に対する認識などご家族も含めて考慮した上での対応をしております。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やひやり・はっとの報告書を使用し、事故やその原因・対応についても職員間で把握するよう努めています。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一通り学んで入るが、定期的にはおこなっていません。		今後研修を通じて、いつでも対応できるよう努めていく。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は実施しておりますが、地域にははたらきかけていません。		今後は町会や地域包括センターと協議していく。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご本人の身体的・精神的状況を踏まえ、随時ご家族と相談・報告し、対応できるよう心がけております。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の状態の変化の把握に努め、変化があれば医師や看護師と相談して対応できるよう努めています。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容や副作用・禁忌のものについても申し送りをし、不明な点は必ず看護師に確認するようにしています。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常的に水分や繊維質のものを多く取るよう配慮し、なるべく下剤に頼らないよう支援しています。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人のペースに合わせて行っています。介助が必要な方は介助し、なるべく自己にて行えるよう支援しています。		今後は更に声掛けをし、口腔内の清潔の保持に努めたい。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量を記録し、個人に合わせて好みのものを使用したり別メニューを用意して対応しています。個々の状態に合わせて必要な量を摂取できるよう支援して		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルス等の感染マニュアルを作成しています。また、外出後などのうがい・手洗いを励行しております。		他の感染症についてもマニュアル等を作成し、研修を通じて学んでいきたい。
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日調理器具や湯のみ、台拭きなどを塩素剤で消毒しています。冷蔵庫内の管理も行い、新鮮な食材を提供できるよう努めていま		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1) 居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花や植木を置いたり、絵を飾っております。靴を履きやすいようにベンチも設けております。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、入居者様と相談しながらリビングの飾りも考えております。トイレの表示等についても、入居者様の意見を尊重しております。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があり、そこで一人になれるような空間を設けております。		談話コーナーのソファで入居者様同士が談笑したり、1階の交流スペースで1人コーヒーを楽しんだり、お気に入りの場所があり、気持ちよく過ごされて
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全にも配慮した上で、相談の上居室にご本人の使い慣れたものや馴染みの物(仏壇・家具等)を持ってきていただくよう努めて		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時などに換気をし、室温についても適宜調整しています。冬季は加湿器を設置し乾燥についても対策を講じています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべてバリアフリーであり、和室の段差は、あえて認識できる高さにしております。トイレや通路、お風呂にも手すりをつけています。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の能力や理解度に応じて、ご本人の混乱を最小限にできるよう努めています。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにプランターを設置し、花や野菜を植えて収穫したものを調理したりしていません。畑のものも同様です。		

(様式1)

## 自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己評価	外部評価	タイトル	
<b>サービスの成果に関する項目</b>			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者がころへ出かけている 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない